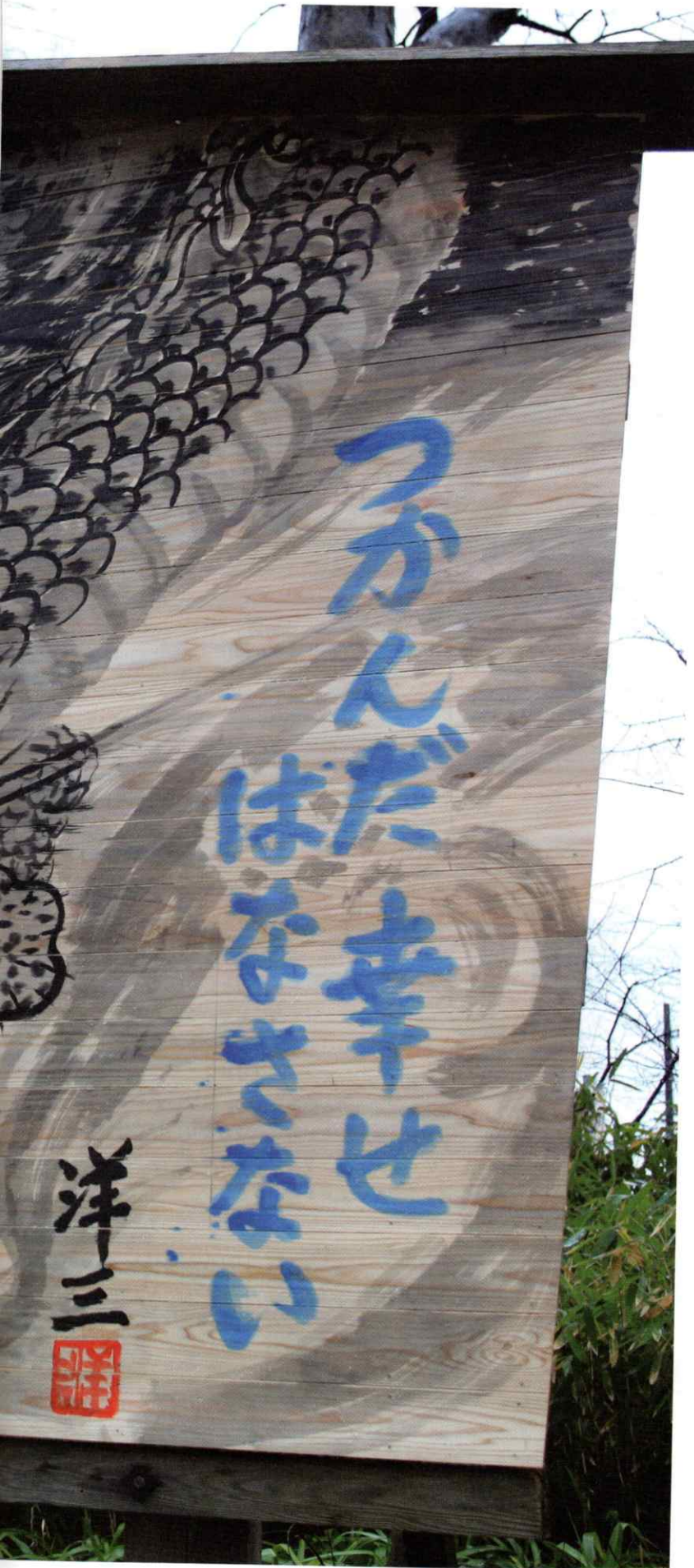




師走になると大絵馬が入れ替わる。絵柄は卯から辰にリレーされる。総社神社に奉納される大絵馬は、「つがんだ幸せはなさない」との願いを込められて参拝者を迎える。絵を描いた飯塚洋三さんは川尻在住の御年九十歳の画家なのだ。幅三メートルを超える大絵馬を、下書きもしないで一氣に書き染めるという。

川尻に暮らしている住人の多くは、総社神社に愛着を持っているだろう。

私の散歩も、神社の北西の角から斜めに入り横切るように進んでいく。樹齢が三百年を超える太い樺たちに挨拶しながら歩を進める。夏はセミの

抜け殻を孫と拾ったり、冬はスノーシューズやカンジキを履いて歩き回ったりしたものだ。

飯塚さんのエネルギーシユな画風にも、総社神社へのこだわりや思い入れなどが作用しているのだろう。

散歩のルートは神社を抜けてから上下水道局を通り農協ビルへ繋がる散歩道を半周しているが、必ずどこかで新築や改装の工事現場と出会う。住宅の世代交代は、解体整地した屋敷を分割して分譲している場合が多い。コンパクトな住宅になるが、この方法だと空き家も空き地もなくなる。人口減少を防いでいるのだろう。

川尻に居住して四十年余りになるが、町民の姿も変わってきた。この地へ移って間もなくの頃、玄関ブザーが鳴るので出てみると、「三十分前どこでなにをしていた」と詰問する警察官が立っていたのだ。近所の郵便局が強盗に襲われ捜査しているとの理由はともかく、「怪しい人は…」に名前が挙がっていたという。しかし、最近では「不動産情報を探しています」と通りがかり人に声を掛けられるような信用も出てきた。

会員減少で子ども会がなくなったり、敬老会の名簿の多さに驚いたりしているが、私にとってはバランスのとれた住みやすい街である。